

## 目 次

P1	令和元年度 年次大会報告	支 部 会 員	小川 正順
P2	「栃木県の産業政策について」の講演会報告	支 部 幹 事	後藤 明
P5	平成30年技術士・技術士補の合格者 祝賀会	支 部 幹 事	新井 達雄
P5	フェスタmy宇都宮 2019	支 部 幹 事	西谷 元則
P7	ゲンジホテル観察会	支 部 幹 事	井本 郁子
P7	令和元年度第1回CPD研修会開催報告 「環境負荷低減を踏まえた建設材料～コンクリートを中心に～」	支 部 幹 事	亀田 則男
P8	新幹事の紹介	支 部 幹 事	小川 正順
P9	新幹事の紹介	支 部 幹 事	後藤 明
P10	年間行事予定	支部広報委員会	
P11	栃木県支部広場 連絡事項 コラム 広報委員長のよもやま話	支 部 広 報 委 員 会	大岩 正通
		支 部 広 報 委 員 長	西谷 元則
P12	協賛団体の紹介 「株式会社 ダイミック」		

## 令和元年度年次大会報告

支部幹事 小川 正順

### 1. はじめに

令和元年6月8日（土）、日本技術士会栃木県支部の年次大会がホテル丸治（宇都宮市）で開催された。公益社団法人日本技術士会栃木県支部は、発足後7年を経過し、今回は栃木県支部としては8回目の年次大会にあたる。

年次大会には31名の技術士が出席し、その後の講演会、報告会、新合格者歓迎会、懇親会には橋本栃木県産業労働観光部次長兼労働政策課長及び関係機関からの来賓、5名の新合格者、協賛団体を含めて46名が参加した。

### 2. 議事次第

司会は福田副支部長、久芳副支部長の開会宣言で始まり、以下の内容で議事進行した。

#### (1) 支部長挨拶

県支部として発足して7年が経過。菅井、小黒前支部長のご尽力により支部活動が充実、発展しており両氏に感謝する。

30年度実績として3点を挙げる。

- ① 技術士の更新制度：資質向上の責務の確認や登録状況の把握が不十分なことを踏まえて、更新制度の導入が予定されている。内容としては、更新期間は5ヶ年で、CPD取得の20時間／年を必須とするなどである。指定研修実施機関は日本技術士会を想定しているとのこと。
- ② 支部幹事の改選：日本技術士会の役員改選に伴い、栃木支部の幹事改選があった。幹事15名の内2名が新任で他の幹事は再任された。
- ③ 組織の再編：組織体制を再編した。特に、中小企業を支援する業務や科学技術・理科教育の活

動展開を図っていきたい。



写真-1 年次大会の様子

#### (2) 報告事項

##### 1) 平成30年度事業経過報告、収支実績及び監査報告

久芳副支部長より平成30年度事業経過報告（概要）があり、その後に新井総務委員長より平成30年度収支実績報告があった。監査結果は井本監査員から報告された。

##### 2) 令和元年度活動方針について

黒須支部長が、「本部や関東8県支部と連携して、これまでの実績を踏まえながら栃木らしい支部活動を展開していく」と述べ、以下5点の活動方針を挙げた。

- ① “会員の顔が見える会” をモットーに、会員の拡大による支部の強化と会員及び協賛団体のためのCPD講座、見学会、研修会を充実する。
- ② “地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋” となるよう市町等が抱える課題に対して社会貢献活動を展開する。

- ③中小企業を支援する業務の拡大を図る。  
特に市貝プロジェクトや宇都宮市・帝京大等の理科教育活動に尽力する。
- ④中小企業を支援する業務拡大を図ることとし、各関係機関等に、技術士業務の案内や具体的支援内容を紹介するとともに、依頼された業務の資質向上を図る。
- ⑤中国浙江省（対外科技交流中心、同済科技職業学院）との交流継続。
- ⑥幹事は4S（Speedy、Strategic、Sensitive、Smile）を心がけ、本会の活性化に努める。

### 3) 令和元年度事業計画

総務委員会（新井委員長）、企画・研修委員会（宮下委員長）、広報委員会（西谷委員長）、企業支援委員会（篠原委員長）、国際委員会（福田委員長）、地域社会貢献委員会（久芳委員長）の各委員長から、それぞれの委員会活動について平成30年度実績と令和元年度計画の説明があった。

### 4) 令和元年度収支予算計画

新井総務委員長より令和元年度収支予算の説明があった。

## 3. おわりに

久芳副支部長が閉会を宣言し終了した。

### 「栃木県の産業政策について」の講演会報告

支部幹事 後藤 明

#### ○ 日時・場所・講師・演題：

令和元年度（公社）日本技術士会・栃木県支部の年次大会終了後、栃木県内の産業政策について講演があった。

日時：令和元年6月8日(土) 15:00-16:10

会場：ホテル丸治 7F 会議室

講師：栃木県産業労働観光部次長

兼産業政策課長 橋本 陽夫 氏

演題：栃木県の産業政策について

#### ○ 概要：

講師の橋本様は、約35年間県庁に勤務され、その大半を産業政策の分野に携わってこられた。その間に様々な企業との接点があり、講演では、「ひと・わざ・つなぎ」というキーワードの下に栃木県の産業政策について解説された。以下、ご講演の内容について概説する。



写真-2 橋本 陽夫 講師

#### ○ 講演内容：

##### (1) 企業と接する中で感じた「現場力低下」

特に、大手企業に於いて不祥事発覚が相次いだことや、QCサークル全国大会での栃木県勢の低迷や世界大会での日本勢の低迷、技能五輪での日本勢の低迷などが現場力低下を感じさせる大きな出来事であった。現場力低下の背景には、最近の国の人材・労働力流動化政策により、企業に於いては即戦力を求める傾向が強くなり、相対的に人材育成の考えが希薄化していることがあると見られる。そこで、「現場力回復の為には、今後継続的に人材を育成してゆくことが重要である」との観点から、栃木県の産業政策にも「人材育成」分野の施策が盛り込まれている。

##### (2) 「現場力回復化」の観点からの県の産業振興政策の在り方

###### (2-1) ひと・わざ

現場力回復の為には、通常の網羅的な取り組みによる効果は期待できないとして、むしろ「ひと」と「わざ」に特化した重点プロジェクト的な取組が行われている。

###### (2-1-a) とちぎ産業成長戦略

栃木県は、「栃木県経済の成長と地域経済の活性化を実現するために5つの重点プロジェクトを戦略的に進めるとともに、県内企業の経営力等の向上を図るために分野横断的な2つの基盤施策に取り組んでゆく。」として、次の5つのプロジェクトと2つの基盤施策を掲げ重点的に推進している。

- 〈1〉ものづくり産業パワーアッププロジェクト
- 〈2〉新たな成長プロジェクト
- 〈3〉グローバル展開プロジェクト
- 〈4〉企業誘致プロジェクト
- 〈5〉観光立県とちぎプロジェクト

特に、〈1〉ものづくり産業パワーアッププロジェクトに於いては、「自動車・航空宇宙・医療機器・光・環境」の重点分野を設定し、これら5分野における新たなイノベーション創出とこれらに係わる先端ものづくり産業の育成・強化を目指している。分野毎に産業振興協議会が設置され、様々な支援事業が進められている。

また、上記各重点プロジェクトを下支えする基盤施策として、以下の2つの施策が策定されている。

- 〈a〉中小企業・小規模企業の活性化
- 〈b〉産業人材の確保・育成

この内、「〈b〉産業人材確保・育成」施策は、次の3つの柱で構成されている。

## [1]体系的な人材の育成

若手・中堅社員向けの実務研修や経営者・管理者向けのコンプライアンス研修、とちぎ技能五輪・アピリンピック2017を契機としたレガシー継承施策

## [2]人材の確保と就労支援

移住から就職までに関するワンストップ相談体制による首都圏からのUIターン促進、首都圏で就学している学生への就職ガイダンス実施

## [3]働きやすい環境づくり

女性管理職比率向上化促進、託児サービス付き女性向け職業訓練の実施

更に、育成の対象となる人材を確保するための施策として「地域活性化雇用創造プロジェクト」がある。これは、戦略的産業分野の企業に対し、競争力強化・人材育成・販路開拓等の支援を行うことにより、企業の成長や創業を促し、良質で安定した雇用を創出することを目指している。既に実績が挙がっており、今後も継続して実績が上積みされるものと見られている。

このように、人材の受け皿となる正社員雇用の促進と人材育成とを有機的に連携させること

により、「ひとづくり」と「わざづくり」が効果的に進められている。

## (2-1-b) 人手不足への対応

人材の受け皿がある一方で、それに呼応できる「人」も必要である。昨今は様々な分野で「人手不足」が言われるようになってきており、これへの対処が必要な状況になってきている。

## ◇ 外国人労働者の活用

国の施策として、「出入国管理及び難民認定法の一部改正」、「新たな在留資格(特定技能)の創出」を通じた外国人労働者の活用促進策があり、今後5年間で34.5万人の外国人労働者の増加が見込まれている。栃木県としては、「外国人サポートセンター開設」、「企業向け相談窓口開設」、「多言語対応(防災情報提供)」、「外国人コーディネータ配置」の施策を掲げ、これら施策の実施により人材不足の解消を目指している。更に、「国際戦略推進本部の設置」により、県産品や農作物・人材・文化などのグローバル展開を図り、「世界に選ばれとちぎ」づくりを進めている。「人材」という側面に於いても、世界の「人材」から就労先として「選ばれとちぎ」となることを目指している。

## ◇ AI・IoT等の導入促進

人手不足の解消の為のもう一つの有効な手段として、AI・IoT等の導入への期待が大きい。現在、栃木県内の企業に於けるAI、IoT、ロボットの導入率(実績)は、以下の通りで、導入の実態としては、大企業 > 中小企業、ロボット > IoT > AI の二つの傾向が読み取れる。

- ロボットの導入：  
大企業 46% > 中小企業 26.8%
- IoTの導入：  
大企業 30.9% > 中小企業 15.7%
- AIの導入：  
大企業 16.5% > 中小企業 5.6%

特に、大企業と中小企業との間の差が大きい状況にある。中小企業の経営者にとって、AI・IoT等システムの導入に於ける費用対効果の見通しが容易に立たないことが、導入への高いハードルになっているものと見られる。例えば、ベーカリー店でのパン等商品販売のレジ打ちへ

の導入実績例に於いても、商品の画像認識(+ AI)により正確で迅速なレジ打ちが可能になるなどメリットがある反面、スタッフが導入機器を使いこなすまでに少なくとも1ヶ月以上の事前の研修を要したという実態がある。従って、AI・IoTの導入で何ができるようになるのか、どうすればできるようになるのか、について広く経営者の方々に認知されることが先ず重要となる。

このため、栃木県では、中小企業経営者の意識付けとAI活用の為の人材育成が重要であるとの観点から、次の3ステップ構成で、AI・IoT・ロボット等の活用促進支援事業が実施されている。

1st ステップ：意識付け(企業現場技術者向け及び企業経営者向けテーマ別セミナー等)



2nd ステップ：助言・指導(専門家派遣事業→導入に向けた診断・助言・指導等)



3rd ステップ：導入支援(導入調査支援事業→フィジビリティ調査に要する費用の一部を助成)

更に、栃木県独自の施策として、「IoT推進ラボ」を設置し、県内企業の生産性向上・競争力強化及び新製品・新サービスの創出を目指している。

## (2-2) つなぎ

各施策・プロジェクト・事業をより有効なものとするために、プレーヤー側とサポート側の連携ネットワークやサポートする側の連携強化の為にネットワークが設けられている。

### (2-2-a) プレーヤー側とサポート側の連携ネットワーク事業

#### ◇とちぎ産業振興プロジェクト推進事業

重点5分野(自動車・航空宇宙・医療機器・光・環境)における産-学-官-金ネットワーク形成→連携・相互交流・情報交換

#### ◇新たな成長プロジェクト

イ) ヘルスケア産業/ロボット産業：それぞれの産業分野にフォーラムを設置→情報交換・新規ビジネスに向けた調査研究

ロ) 食の産業振興(フードバレーとちぎの新展開)：産・学・官 連携による新商品開発や技術開発

### (2-2-b) サポートする側の連携強化ネットワーク事業

#### ◇とちぎ企業応援ネットワーク

以下の4プロジェクトの連携を強化

- ・創業支援プロジェクト
- ・事業承継支援プロジェクト
- ・金融支援プロジェクト
- ・経営力向上支援プロジェクト

また、サポートする側の構成員は、国、県、市町、県域商工団体、商工会、商工会議所、金融機関、産業振興センター等の支援機関、専門家となっており、特に、専門家集団としての「技術士会」への期待は非常に大きく、今後協力を得るための声掛けをさらに活発化してゆきたいと話されていた。

### (3) トピックス

最後に、以下のような産業施策に関するトピックスをご紹介頂いた。

◇「次世代産業創出・育成 T-Startup 事業」や「とちぎまるごと創業プロデュース事業(とちぎまるごと創業)」を通じて創業支援事業を実施してきた結果、昨今は中小企業の持続率(開業率 - 廃業率)が上向き傾向になっており、今後も引き続き、技術シーズ発の創業支援や地域課題解決型の創業支援を目指してゆくとのこと。

◇ 産業技術センターでは「IoT 支援委員会」を最近立ち上げ、IoTの効能についてのPR活動や勉強会を推進してゆく予定であるとのこと。



写真-3 講演会の様子

## ○ 所感：

栃木県に於いては、重点プロジェクトを設定した上で、実に多くの施策・事業が網の目のように張り巡らされて進められていること、またそれらの連携による多くの支援体制があることがわかった。産業の発展にとって「人材」と「技術力」に加え、有機的な「連携/ネットワーク」が重要であると思われた。さらに、講演の中で、専門家としての「技術士」や専門家集団としての「本技術士会栃木県支部」への期待が大きいことを知らされ、我々技術士もその期待に答えるべくより一層の研鑽に励むことの重要性を痛感すると同時に、県内産業振興施策への支援を通じて、関連企業の発展と県民生活の質の向上に貢献してゆきたいと思った次第である。

## 平成30年技術士・技術士補の合格者祝賀会

支部幹事 新井 達雄

懇親会もたけなわのころ、新合格者の皆さんに自己紹介をして頂きました。

今回、登壇して頂いたのは、新しく技術士・技術士補に合格された5名と、既に資格をお持ちで、この会に初めて参加された2名の計7名でした。



写真-4 技術士・技術士補の合格祝賀会の乾杯

自己紹介の中で、皆さんが現役としてご活躍中で、各分野で素晴らしい技術経験をされていることが披露されました。また、技術士の資格を今後活かすための抱負や、支部における技術交流への期待が述べられました。

今回参加された皆様方には、是非、日本技術士会に入会して頂き、新たな若い力で栃木県支部の活動が活性化し、発展することを期待致し

ます。

そのためにも、我々現役会員が、魅力在る会創りに知恵を結集する必要性を痛感した次第であります。



写真-5 技術士・技術士補の合格者7名

## フェスタmy宇都宮2019

「わくわくどきどきサイエンス」

支部幹事 西谷 元則

開催日時：5月19日(日) 10:00~15:00

会場：宇都宮市中央市民センター 2階

出展

- ・みらいの自動車教室
- ・コールモータ教室
- ・空飛ぶ植物のたね

「アルソミトラ紙飛行機教室」

県支部スタッフ：川上、久芳、松原、小黒、長山、富田、小島、福田、西谷(9名) 敬称省略

フェスタmy宇都宮は、「市民の日」の記念イベントとして毎年5月の第3日曜日に開催され、当会県支部では6回目の出展となります。

私たちの出展は、中央生涯教育センターの理科教育に毎年参加しており、小学生を対象とした理科体験学習をテーマに上記の3つの教室を開催しました。

「みらいの自動車教室」は、事前予約制(AM、PM各20名)で募集し、事前予約の段階で定員に達し、追加5台ほど用意して開催しました。

やはり人気の高いイベントメニューのため、午前は定員どおり20名、午後は4名追加の24名の小学生と保護者の方で教室は大賑わいでした。



写真-6 「みらいの自動車教室  
マグネシウム燃料電池ミニカー」の様子

「アルソミトラ紙飛行機教室」は簡単な工作の紙模型で良く飛び、子供だけでなく親も歓声を上げて喜ぶ人が多く見受けられた。

支部スタッフは5月の連休に準備をしたこともあり、以下の参加人数でした。

表-1 フェスタmy宇都宮の各教室参加数

教室名	準備回数	参加者
みらいの自動車教室	45キット	44名
コイルモータ教室	30キット	29名
アルソミトラ 紙飛行機教室	100枚	15名



写真-7  
マグネシウム燃料電池ミニカー製作の様子

今回、スタッフで参加するのははじめての会員の福田様大変ありがとうございました。



写真-9 コイルモータ教室



写真-8 牛乳パックで作成したコースで試運転

「コイルモータ教室」は、昨年までは、あまり人気なかったが、今年は29名の参加があり、「みらいの自動車教室」終了後に、コイルモータに興味を持ち、参加した小学生も多かったようです。幹事の川上氏が開催ごとにキットに改良を加えて頂き、だいぶ完成度が高くなり、コイルがよく回るようになりました。



写真-10 アルソミトラ紙飛行機教室

## ゲンジボタル観察会

支部幹事 井本 郁子

日本における里山の林や水辺、水田は人々の知恵により維持されてきた重要な環境として近年世界的にも大きな注目を浴びています。栃木県は、いくつもの河川が丘陵地を分けるように流れ、水と緑が豊かな地域ではありますが、中でも、市貝町は小貝川の源流域であり、森や林と耕作地が接した小さな谷が数多く残る地域です。このことはまた、希少な猛禽類であるサシバが数多く生息する環境となり、「サシバの里」としても国際的に大きな注目を浴びています。

本研修では、夏の夜の風物として古くから人々に親しまれておりながら、都市部ではすっかり姿を消してしまったホタルを観察し、その生息環境と生態について学び、里の自然を守り活かすための課題を考えました。開催は6月15日に予定されておりましたが、強い雨風が予報されたことから延期、6月22日（土）に開催されました。参加者は大人9名子供3名でした。

はじめに、続谷里の会会長高德則夫氏から、ホタルの保護についてお話がありました。ホタルが発生する谷津田の環境を維持していくために大切なこととして、「水田の継続耕作と管理」「光害の回避」「生物への配慮（農薬の抑制）」など、地域の人々によって様々な努力がなされているとのことでした。なかでも水田の耕作の継続はこの地域の土地利用の特徴、浅い谷の奥まで水田として利用され、畦や山裾の草刈りにより、水路と水田が維持されていることを現していると考えられます。

また、光の影響については、ホタルの発生する季節には、一部の道路において街路灯の消灯を要請、あるいは工事箇所に取り付けられた点滅灯を可能な限り消灯など、きめ細かい工夫がされているとのことでした。このような配慮の積み重ねにより、市貝町続谷地区では、自然のままのホタルの生息が維持されているということでした。「本物のホタル」という高德氏の言葉がその価値をわかりやすく表現していました。

観察は19時30分に出発、薄暗い道を歩きアマガエルの合唱に歓迎されながら目的の谷奥の水田と休耕田の草地に。気温はやや低いものの、ゲンジボタルとヘイケボタルの2種類のホタルを観察することができ、大人の参加者は久々にみるホタルにしばし昔日



を思い、子供たちは初めて見るホタルに大喜びとなりました。

この日は、ホタルに加え、アマガエルのほか、シュレーゲルアオガエル、トウキョウダルマガエル、ツチガエルと合計4種類のカエルの声を聞くこともできました。



写真-11 高德氏から続谷のホタルについてお話  
—続谷の自然とホタル、ホタルの生態、  
ホタルを守るためには—



写真-12 ホタルが発生している谷奥の様子、  
多様な湿地の植物が生育している

## 令和元年度第1回CPD研修会

「環境負荷低減を踏まえた建設材料～コンクリートを中心に～」開催報告

支部幹事 亀田 則男

2019年7月20日（土）午後1時より、宇都宮市のニューみくら会議室において、令和元年度第1回CPD研修会を開催しました。今回の講師は、宇都宮大学地域デザイン科学部社会基盤デザイン学科の丸岡正知准教授です。専門は建設材料、コンクリート工学。これまで、高流動コンクリートの圧力損失現象に関する研究をはじめ、セメント無使用（クリンカーフリ

一) 高強度コンクリートの開発やリンカー骨材コンクリートの自己治癒性に関する研究等をされています。



近年は、コンクリートを中心とした環境負荷低減を踏まえた建設材料に関する研究に取り組みされており、2005年に技術士(建設部門)を取得されています。

丸岡先生は1994年群馬大学大学院工学研究科博士前期課程建設工学専攻を修了後、日本セメント株式会社(現太平洋セメント株式会社)に入社。同社研究所研究員を経て、2010年より宇都宮大学で教壇に立たれています。

講義では、①建設系材料として重要なセメント製造における環境負荷低減について、②セメント量低減を目指した研究について、③環境負荷低減コンクリートについて、④副産物を利用したコンクリートについて、⑤リサイクル材料を用いたコンクリート製品への利用について、多くの試験結果や数値根拠資料により、丁寧にわかりやすい解説をいただきました。

今後、セメント系材料における環境負荷低減に向けての課題としては、⑥コンクリート製造時の普通ポルトランドセメント使用割合を減じる技術、⑦バージン材ではなく副産物・廃棄物の利用促進が課題である。など金属系や廃棄物起源のスラグ骨材の利用促進が重要な役割であると同時に製品利用のハードルを下げる技術開発が必要になると講義を結ばれました。

参加者からは「学生時代に受講した講義を思い出した」や「改めてセメントの知識について復習できて良かった」などとても好評でした。

研修参加者の多くは建設コンサルタントに勤務する技術士であり、長時間の講義にも拘わらず、真剣に耳を傾けていました。そして、最後に行われた参加者と講師との質疑応答も活発に行なわれ、とても有意義なCPD研修会となりました。ご参加の皆様、お疲れ様でした。



写真-13 研修会の様子

## 新幹事の紹介

支部幹事 小川 正順

このたび栃木県支部幹事に選任されました小川です。宇都宮測量株式会社に勤めている企業内技術士です。

2007年に技術士(農業部門(農業土木))となり、栃木県支部発足から入会していますが、これまでは一會員の立場で活動してきました。今回、縁あって幹事となりました。私のできる範囲で精いっぱいがんばっていきたいと思いますので、宜しくお願いします。

技術士会の活動以外には、「シモツケコウホネ」の保全活動に携わっています。私の地元那須烏山市内に自生している「シモツケコウホネ」は、世界中で栃木県内の限られた場所(現在4カ所)にしか生育しない希少種で、環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠA類の中でも特別に「国内希少野生動植物種」に指定されています。保全活動は、環境省から国内希少野生動植物種捕獲等許可(私の許可番号は1904093号)を受けた下川井の郷保全会役員20名を中心に活動しています。このシモツケコウホネ保全活動の経験を、技術士会での自然環境保全や地域活性化等に関する取組みにも生かしていければと思います。





## 新幹事の紹介

### 支部幹事 後藤 明

このたび、日本技術士会栃木県支部の幹事に  
なりました、後藤です。

出身は仙台で、1953年の生まれです。地元  
の大学で金属材料を専攻し、  
1978年に社会に出て技術畑  
を歩み始めました。



社会に出てからは、自動車  
関連の企業に勤務し、自動  
車・オートバイ・汎用製品等  
の部品や材料の研究開発等に携わって参りました。  
2013年に一旦定年退職いたしました  
が、引き続き同じ会社に勤務し(再雇用)、  
2018年6月に任期満了にて退職しました。

技術士資格は、2013年に金属部門を、又、  
2016年に機械部門を取得し、今日に至って  
おります。昨年度まで、日本技術士会統轄本部での  
研修委員会幹事や金属部会での幹事を仰せつか

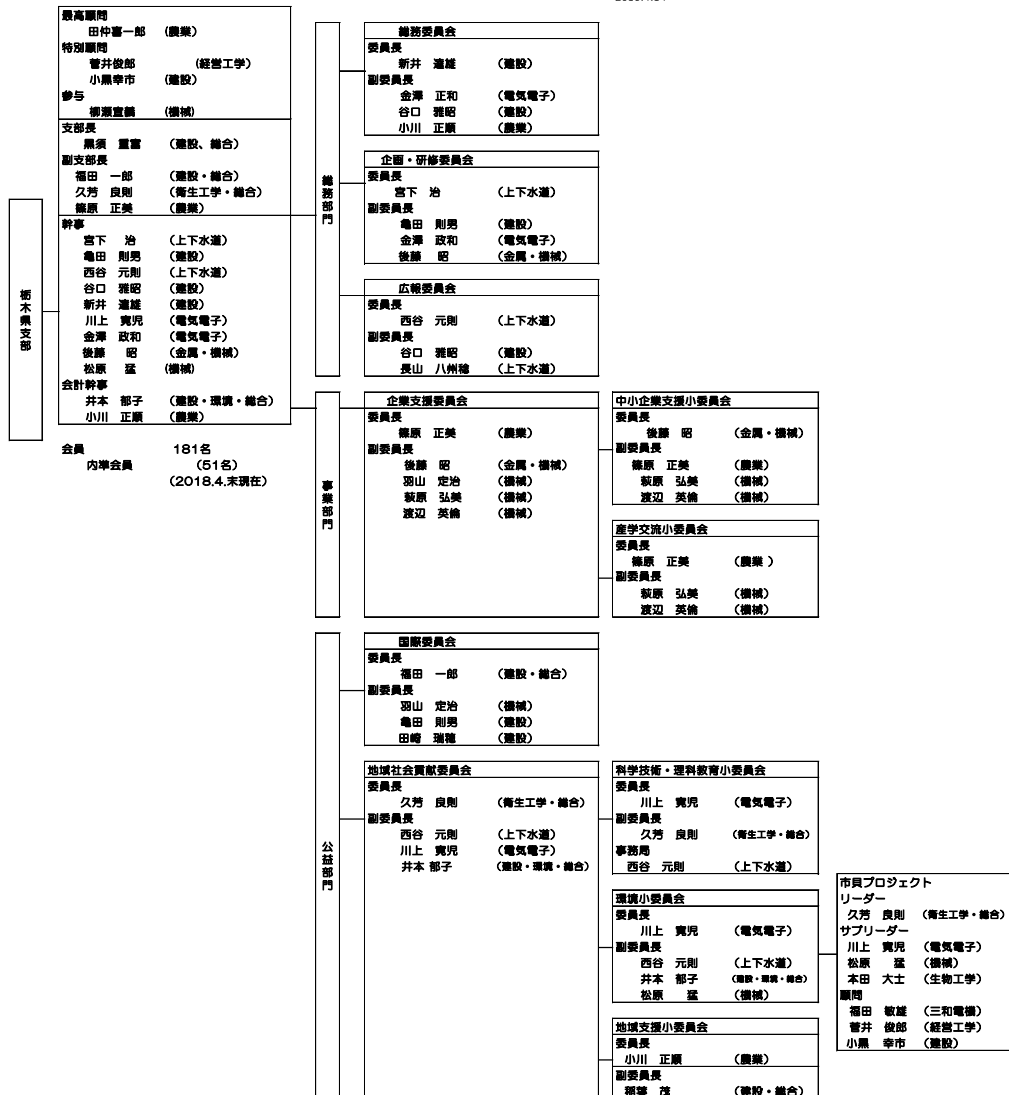
ってきました。

その間、CPDの機会に乏しい環境にある会  
員の方々に少しでもその機会を広げる為の取  
組みや、CPD定期審査関連の業務、金属部  
会創立60周年記念事業などに携わって参  
りました。また、技術士全国大会へ参加し、  
他の地域の技術士の方々との交流を深め  
たりして参りました。地域の壁や技術部門  
の壁を越えて様々な技術士の方々と交流  
することを通じて、自己とは異なった考  
え方と接するにつけ、これからも学ぶこ  
とは多いと感じております。

今後は、栃木県支部会員の皆様の研鑽活  
動のお手伝いや、技術士業務の領域と機  
会の拡大に向けて努めて参りたいと思いま  
す。不慣れで至らぬところが多々あると  
は思いますが、皆様のご協力を得て県支  
部会員の皆様の活動に少しでも貢献でき  
るよう、微力を尽くしてゆきたいと思いま  
すので、ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞ  
よろしくお願い申し上げます。

## 公益社団法人日本技術士会 栃木県支部 組織

2019.4.14



### 令和元年度栃木県支部行事予定

月	日	曜日	総務委員会	企画・研修委員会	広報委員会	国際委員会	企業支援委員会	地域社会貢献委員会	市貝町プロジェクト	CPD対象	
	随時	—	月締め清算		ホームページ運営					—	
4月	13日	土	第1回役員会	新合格者祝賀会							
	17日	水	かおる会								
	20日	土				国際交流員歓迎会		第1回環境支援・理科研究会			
	22日	火							市貝浮島打合せ		
	27日	土					企業支援役員会				
5月	11日	土	第2回役員会					ファミmy宇都宮準備			
	15日	水	かおる会								
	19日	日						ファミmy宇都宮			
6月	8日	土	年次大会 第3回役員会	講演会 合格者祝賀会	第1回 広報委員会					●	
	15日	土		見学会・環境支援 共催				市貝町ゲンジボタル観察会		●	
	19日	水	かおる会								
	25日	火				第1回 国際委員会					
	29日	土							第1回会合		
	未定	—									
7月	13日	土					第1回 企業支援委員会	第2回 環境支援小委員会			
	14~15日		技術士二次試験								
	17日	水	かおる会								
	20日	土	第4回役員会	第1回 CPD研修会						●	
	25日	木			会報13号 原稿締切						
	未定	—					第2回 企業支援委員会			●	
8月	5日	月			会報13号 編集完了						
	6日	火				第2回 国際委員会					
	19日	月			会報13号 発刊準備						
	21日	水	かおる会								
	25日	日							いちかい浮島PJ		
	26~31日	月~土				さくらサイエンス プラン訪日団				●	
	未定	—									
9月	8日	日						エンジョイカガク 2019			
	14日	土	第5回役員会	第2回 CPD研修会				第2回 理科教育研究会			
	12日~15日	—				浙江省 インフラ視察研修					
	18日	水	かおる会								
	29日	日						よささウオーク 2019			
	未定	—		第1回 見学会			宇大企業 交流会出展		いちかい浮島PJ	●	
10月	12日	土	第6回役員会								
	14日	日						まちびあ祭り			
	16日	水	かおる会								
	19日	土		静岡大OB会共催 講演会					いちかい浮島PJ	●	
	22日	火				第3回 国際委員会					
	24日~26日	木~土				第49回日韓技術士 会議（高陽市）					
	未定	—		第3回研修会 第2回見学会						●	
11月	9日	土	第7回役員会	科学技術講演会	第2回 広報委員会		第3回 企業支援委員会	第3回環境支援小委 (ECOフック準備)		●	
	20日	水	かおる会						いちかい浮島PJ		
	未定	—									
12月	1日	日						ECOフック&フック とちぎ2018		●	
	14日	土	第8回役員会	講演会・交流会等	会報14号 原稿締切					●	
	18日	水	かおる会								
	25日	水			会報14号 編集完了				いちかい浮島PJ		
1月	15日	水	かおる会								
	19日	日			会報14号 発刊準備						
	未定	—				第4回 国際委員会	第4回 企業支援委員会		いちかい浮島PJ		
2月	8日	土	第9回役員会								
	19日	水	かおる会								
	未定	—		情報提供講座		浙江職業学院 技術交流			第3回会合	●	
3月	14日	土	第10回役員会								
	18日	水	まちびあ 年度事業報告会								
	未定	—				第5回 国際委員会			いちかい浮島PJ		

## 栃木県支部会報広場

### 【連絡事項】

#### ・いちかい浮島プロジェクトの参加者募集

植物グループ、水質・水生動物グループ、工作グループ、などに別れてプロジェクト活動を行います。さらに市貝町の活性化を図るために別途のプロジェクトの活動が行われています。これらをつ結びつけるプランニングの検討も行いたいと思っています。

協力していただける企業を含め、会員、非会員の方も大歓迎です。

以上の参加を希望する方は広報委員会 西谷まで連絡ください。

Mail アドレス：nishitani@aep-mizukankyoku.jp、携帯電話番号：090-1406-2326

### ＝コラム＝ (広報委員会 大岩 正通)

#### 祖母井神社 本殿 (うばかいじんじや ほんでん)

所在地：芳賀町祖母井 749

文化財：県指定有形文化財 (建造物)



今回は、芳賀町祖母井の「祖母井神社本殿」を紹介します。

祖母井神社 本殿は江戸時代中期 明和7年(1770)に宮大工・田野辺の仙衛門(市貝町、彩色・水府磯浜の人見峯春(茨城県大洗町)の手により建造され、当時の豪農・横堀仙衛門翁により寄進されました。

三間社流造り、向拝付、桁三間、梁間二間の本殿は、向拝彫刻や妻飾りに繊細な手法が施されています。特に妻飾り(側面)の彫刻は松と鷹、飛竜、菊水、花鳥、神獣などの図柄を5段に配した意匠は、変化に富んだ構成になっています。



疎水と琵琶湖を繋ぐ水門

#### 広報委員長のよもやま話

5月31日～6月2日の滋賀の旅を紹介します。

皆様、「琵琶湖疎水」って知っていますか？栃木県にも那須疎水がありますが、疎水事業として外国人の技術者に頼らず日本人の手のみでつくった最初の疎水です。また、日本初の山の上から立坑を築き施工期間を短縮した事業としても知られています。山の下をとる隧道(トンネル)を船に乗って見学できることを知り、1回に9名しか乗船できない激戦に申し込み見事勝ち取れラッキーでした。夜食は「3種の地酒の飲み比べ」と「ぼく鍋(うなぎのしゃぶしゃぶ)」の地味を満喫しました。帰りの新幹線では、B級グルメの「サラダパン」(たくわんを挟んだコッペパン)をくわえながら帰ってきました。



隧道の中



開水路



ぼく鍋



## 協賛団体の紹介

### DAIMIC 株式会社 ダイミック

代表者名：代表取締役 山本 修一  
 所在地：宇都宮市御幸ヶ原町 81-14  
 U R L：WWW.daimic.co.jp  
 E-mail：info@daimic.co.jp  
 T E L：028-663-4000  
 F A X：028-660-6340  
 創立年月日：昭和62年12月25日  
 従業員数：18人

【業務内容】建設コンサルタント

- 土木設計 ●測量
- 環境アセスメント及び環境関連業務
- 各種土地開発の造成の企画、設計、許認可申請等



当社は昭和62年12月、栃木県河内郡河内町下岡本（現宇都宮市下岡本町）で創業し、平成2年11月に現在の地に社屋を建設し移転しました。

当社は、地場のコンサルタント会社として、橋梁、道路、河川、電線共同溝などの土木設計をはじめとし、地元では特色ある環境アセスメント業務も行っています。また近年、国が推し進めている橋梁などの調査点検、補修設計等も手掛けています。

当社は地域に根差した建設コンサルタント会社として、公共土木設計に力点を置くことはもちろん、地域の環境を守り自然と調和した街づくりを基本にしています。

企業理念に「奉仕」「貢献」「努力」「研鑽」「進取」「飛躍」を据え、社風は自由闊達を旨とし、自由な発想の下、個人が責任を持って業務を遂行する体制をつくっています。

平成28年5月には、栃木県が進める国の特別史跡、特別天然記念物の二重指定を受けている「日光杉並木」のオーナー制度に参加し、杉並木保護を行う社会貢献活動に取り組んでいます。

### 協賛団体の紹介（五十音順）

当支部に協賛載している団体です。

宇都宮測量 株式会社	栃木県技術士会報18号紹介
株式会社 格和測量設計	栃木県支部会報 14号紹介
晃洋設計測量 株式会社	栃木県技術士会報12号紹介
株式会社 三和電機	
株式会社 真和技研	栃木県支部会報 10号紹介
株式会社 藤原設計	栃木県支部会報 11号紹介
★株式会社 ダイミック	
株式会社 中央土木工学研究所	栃木県支部会報 創刊号紹介
東亜サーバイ 株式会社	栃木県技術士会報14号紹介
東洋測量設計 株式会社	栃木県支部会報 3号紹介
株式会社 栃木用地補償コンサルタント	栃木県技術士会報15号紹介
栃木県庁OB職員技術士会	
有限会社 那須化成	栃木県支部会報 9号紹介
日研測量 株式会社	栃木県支部会報 4号紹介
日昌測量設計 株式会社	栃木県技術士会報16号紹介
株式会社ピーシーレールウェイコンサルタント	栃木県支部会報 8号紹介
株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ	栃木県支部会報 6号紹介
富士コンサルタンツ 株式会社	栃木県支部会報 13号紹介
美替地質 株式会社	栃木県技術士会報12号紹介
株式会社 水環境プランニング	栃木県技術士会報17号紹介

上記団体を順次ご紹介させていただきます。「★」は当号の紹介です。

### 編集後記

今年は役員選挙があり、新任2名を含めて15名の役員が選任されました。新しい風を入れて頂き、活発な活動を期待します。

さて、技術士法の改定により、技術士の継続教育訓練が必要になってきました。毎年20時間の研鑽はハードルが低いと思われませんが、いざCPD登録となるとなかなか大変なものです。県支部では企画・研修委員会を中心にCPD研修・見学の開催に20時間を目安に計画しております。さらに、支部活動によるCPD活動もポイントに含まれますので興味のある活動にご参加ください。「いちがい浮島プロジェクトもその一環となります。県内の活性化活動を行いながら研鑽ができる良い機会と思います。

さらに、支部全体の若返り（実年齢ではなくチャレンジする精神年齢）を図るために興味のある活動に積極的にご参加ください

### 公益社団法人 日本技術士会 栃木県支部 会報 第15号 2019年8月発行

発行者 栃木県支部（支部長 黒須 重富）

広報委員会：委員長 西谷元則

副委員長 谷口雅昭、長山八洲稔

委員 大島晃二、大岩正通、木村隼人

事務局 〒321-0954

宇都宮市元今泉5丁目9-7 宇都宮まちづくりセンター内

Tel：028-678-8600/Fax：028-678-8630